



医療被ばくのQ&A

今回は検査の中で患者さんが心配される事の多い“医療被ばく”について、実際に医療現場で質問されることの多い事項を取り上げたいと思います。

まずはじめに医療被ばくという言葉をはじめて耳にした方のために、医療被ばくとは何かを説明します。

医療被ばくとは、ICRP（国際放射線防護委員会）によると

- ① 基本的には集団検診・法律・医学的な診断および治療の目的で個人が受ける被ばく
- ② 診断や治療を受けている患者の介護・介助を放射線被ばくを承知の上で自発的に受けるもの

と定義されています。

つまり、医療行為（検査や治療など）を受けた本人や承知の上で介護・介助を行った方が受ける放射線被ばくのことを言います。

Q. X線写真は1回に何枚まで撮影しても大丈夫なのですか？

A. 1回のX線検査で撮影する枚数制限は特にありません。病気の発見や治療の経過観察をするためなど、医師が判断した必要最低限の枚数分だけ撮影されます。

人の身体は、とても複雑な構造をしているので、X線検査をする部位やその人の症状などによって、いろいろな方向から撮影することがあります。通常は正面と側面の2方向以上のX線写真を観察することで、人体の患部を立体的に把握しています。より複雑な患部であったり、より精密な観察が必要である場合には、さらに多くの枚数を撮影します。

医学の進歩とともに放射線診療技術も進歩し続けているので、現在のX線検査では以前のX線検査に比べて1回に受ける放射線量もかなり少なくなっています。

通常の撮影にて、X線被ばくが問題となることはまずありません。

Q. 子供が検査をした時、一緒にいても影響はないのですか？（子供やお年寄りなどのX線撮影時における介助者の被ばくは大丈夫でしょうか？）

A. 子供やお年寄りのX線撮影の介助をご家族や付き添いの方にお願ひすることがあります。その際、介助者には必ず防護衣を着用してお願いいたします。

まず、X線は電氣的に発生しており、しかも1秒以下の極めて短い時間の通電すなわちX線の発生ですので、放射性物質のようにいつも放射線が出ているわけではないことをご理解下さい。

また、X線は患者さんを中心に照射されるため、介助者が直接被ばくする事は少なく、患者さんからの散乱線（直接照射されないため直接線よりも少ない放射線）による被ばくがほとんどです。また、介助者には、不必要な放射線を防ぐ防護衣を着用していただきますので更に10分の1程度にまで低減されます。よって、通常のX線検査ではほとんど被ばくすることはありません。

介助者が妊娠している場合でも、子供がぐずってどうしても撮影が出来そうもない時はご協力をお願いする場合があります。しかし、上記のとおり防護衣を着用していただきますので胎児への被ばくはほとんど0に近く、このことが原因で妊娠に影響を及ぼす事はありません。

今回取り上げた医療被ばくは、検査を受ける患者さんがより安心出来るように当院はもちろん、他の施設でも患者さんの被ばく低減に努めております。検査には病態の把握や経過観察などといった重要な意味がありますので、必要な検査は回数を心配せずに受けられることをお勧めします。

検査や放射線被ばくに関する疑問およびご質問は、撮影時にスタッフにご相談下さい。

医療法人社団幸心会 江別脳神経外科
江別市中央町1-12（3番通り沿い）
TEL(011)391-3333 FAX(011)391-3311
<http://www.myclinic.ne.jp/neuroebetsu/pc/>

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 2:00~6:00	○	○	○	/	○	/

